



システム メッセージ ログイングの設定

この章では、Catalyst 6500 シリーズ スイッチ上でシステム メッセージ ログイングを設定する方法について説明します。



(注) この章で使用しているコマンドの完全な構文および使用方法の詳細については、『*Catalyst 6500 Series Switch Command Reference*』を参照してください。



(注) システム メッセージの詳細については、『*System Message Guide — Catalyst 6500 Series, Catalyst 2948G, Catalyst 2980G Switches*』を参照してください。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- システム メッセージ ログイングの機能 (p.28-2)
- システム ログ メッセージの形式 (p.28-4)
- システム メッセージ ログイングのデフォルト設定 (p.28-5)
- スイッチ上でシステム メッセージ ログイングの設定 (p.28-6)
- コールホームの設定 (p.28-14)

システム メッセージ ログिंगの機能

システム メッセージ ログング ソフトウェアは、メッセージをログ ファイルに保存するか、または他の装置に転送します。システム メッセージ ログングには次の機能があります。

- モニタおよびトラブルシューティングのためのログ情報を提供します。
- 収集したログ情報のタイプを選択できます。
- 収集したログ情報の宛先を選択できます。

スイッチはデフォルトの設定として、正常ではあるが重要なイベントを通知するシステム メッセージを内部バッファに記録し、さらにシステム コンソールに送信します。ファシリティ タイプ (表 28-1 を参照) および重大度 (表 28-2 を参照) に基づいて、保存するシステム メッセージを指定できます。メッセージにはタイムスタンプが付加されるので、リアルタイムのデバッグおよび管理に有効です。

スイッチの CLI (コマンドライン インターフェイス) を使用するか、適切に設定した Syslog サーバに保存することにより、記録されたシステム メッセージを表示できます。スイッチ ソフトウェアは、内部バッファに最大 500 の Syslog メッセージを保存します。したがって、スイッチに Telnet またはコンソール ポートを使用してアクセスするか、または Syslog サーバ上のログを調べることに より、離れた場所でシステム メッセージをモニタできます。

システム障害が発生した場合、システム Syslog ダンプにより、Syslog バッファ内のシステム メッセージをフラッシュ ファイルに書き込み、障害発生前の関連する Syslog 情報を取り込むことができます。システムのコア ダンプ機能がイネーブルになっている場合、Syslog のダンプはコア ダンプの前に行われます。



(注)

Syslog サーバにリダイレクトされるメッセージは、最大で 90 秒遅れます。

表 28-1 に、システム メッセージ ログでサポートされるファシリティ タイプを示します。

表 28-1 システム メッセージ ログのファシリティ タイプ

ファシリティ名	定義
all	すべてのファシリティ
acl	ACL ファシリティ
cdp	Cisco Discovery Protocol
cops	Common Open Policy Server
dtp	Dynamic Trunking Protocol
dvlan	ダイナミック VLAN
earl	Enhanced Address Recognition Logic
filesys	ファイル システム
gvrp	GARP VLAN Registration Protocol
ip	Internet Protocol
kernel	カーネル
ld	ASLB ファシリティ
mcast	マルチキャスト
mgmt	管理
mls	Multilayer Switching (マルチレイヤ スイッチング)

表 28-1 システム メッセージ ログのファシリティ タイプ (続き)

ファシリティ名	定義
pagp	Port Aggregation Protocol (ポート集約プロトコル)
protfilt	プロトコルフィルタ
pruning	VTP プルーニング
privatevlan	プライベート VLAN ファシリティ
qos	サービス品質
radius	Remote Access Dial-In User Service
rsvp	ReSerVation Protocol
security	セキュリティ
snmp	Simple Network Management Protocol (簡易ネットワーク管理プロトコル)
spantree	Spanning-Tree Protocol (スパニングツリープロトコル)
sys	システム
tac	ターミナル アクセス コントローラ
tcp	Transmission Control Protocol
telnet	端末エミュレーションプロトコル
tftp	Trivial File Transfer Protocol (簡易ファイル転送プロトコル)
udp	User Datagram Protocol
vmpls	VLAN Membership Policy Server (VLAN メンバーシップ ポリシー サーバ)
vtp	VLAN トランク プロトコル

表 28-2 に、システム メッセージ ログがサポートしている重大度を示します。

表 28-2 重大度の定義

重大度	説明
0 — emergencies (緊急)	システムは使用不可能
1 — alerts (アラート)	即時処置が必要
2 — critical (クリティカル)	クリティカル
3 — errors (エラー)	エラー
4 — warnings (警告)	警告
5 — notifications (通知)	通常のパグ
6 — informational (情報)	通知メッセージ
7 — debugging (デバッグ)	デバッグ メッセージ

システム ログ メッセージの形式

システム ログ メッセージは、パーセント記号 (%) から始まる最大 80 文字のメッセージです。メッセージは、次の形式で表示されます。

mm/dd/yyyy:hh/mm/ss:facility-severity-MNEMONIC:description

表 28-3 に、Syslog メッセージの要素を示します。

表 28-3 システム ログ メッセージの要素

要素	説明
<i>mm/dd/yyyy:hh/mm/ss</i>	エラーまたはイベントが発生した日時。この情報は、 set logging timestamp enable コマンドで設定した場合に限って表示されます。
<i>facility</i>	メッセージが指し示すファシリティ (SNMP、SYS など) です。
<i>severity</i>	メッセージの重大度を示す 0 ~ 7 の 1 桁のコード
<i>MNEMONIC</i>	エラー メッセージを独自に説明するテキスト
<i>description</i>	報告対象のイベントの詳細情報を含むテキスト

次に、スイッチの一般的なシステム メッセージの例を示します (システム起動時)。

```
1999 Apr 16 10:01:26 %MLS-5-MLSENABLED:IP Multilayer switching is enabled
1999 Apr 16 10:01:26 %MLS-5-NDEDISABLED:Netflow Data Export disabled
1999 Apr 16 10:01:26 %SYS-5-MOD_OK:Module 1 is online
1999 Apr 16 10:01:47 %SYS-5-MOD_OK:Module 3 is online
1999 Apr 16 10:01:42 %SYS-5-MOD_OK:Module 6 is online
1999 Apr 16 10:02:27 %PAGP-5-PORTTOSTP:Port 3/1 joined bridge port 3/1
1999 Apr 16 10:02:28 %PAGP-5-PORTTOSTP:Port 3/2 joined bridge port 3/2
```

システム メッセージ ログिंगのデフォルト設定

表 28-4 に、システム メッセージ ログिंगのデフォルト設定を示します。

表 28-4 システム メッセージ ログिंगのデフォルト設定

設定パラメータ	デフォルト設定
コンソールへのシステム メッセージ ログिंग	イネーブル
Telnet セッションへのシステム メッセージ ログिंग	イネーブル
ログング バッファ サイズ	500 (デフォルトであり最大値)
ログング ヒストリ サイズ	1
ログング ヒストリ 重大度	warnings (4)
タイムスタンプ オプション	イネーブル
ログング サーバ	ディセーブル
Syslog サーバの IP アドレス	設定なし
サーバ ファシリティ	LOCAL7
サーバ 重大度	warnings (4)
システム メッセージのファシリティ / 重大度	sys/5 dtp/5 pagp/5 mgmt/5 mls/5 cdp/4 udld/4 その他のファシリティ / 2
システム Syslog ダンプ	ディセーブル
システム Syslog ダンプ用のデバイスおよびファイル名の指定	フラッシュ デバイスは slot0: ファイル名は sysloginfo

スイッチ上でのシステム メッセージ ログイングの設定

ここでは、スイッチ上でシステム メッセージ ログイングを設定する手順について説明します。

- セッション ログイングのイネーブル化およびディセーブル化 (p.28-6)
- システム メッセージ ログイングの重大度の設定 (p.28-7)
- ログイング タイムスタンプ イネーブル ステートのイネーブル化およびディセーブル化 (p.28-8)
- ログイング バッファ サイズの指定 (p.28-8)
- Syslog メッセージ数の制限 (p.28-8)
- UNIX Syslog サーバ上での Syslog デーモンの設定 (p.28-9)
- Syslog サーバの設定 (p.28-9)
- ログイングの設定の表示 (p.28-10)
- システム メッセージの表示 (p.28-11)
- システム Syslog ダンプのイネーブル化およびディセーブル化 (p.28-12)
- システム Syslog ダンプ用のフラッシュ デバイスおよびファイル名の指定 (p.28-13)

セッション ログイングのイネーブル化およびディセーブル化

特に設定しなかった場合、システム ログイング メッセージはデフォルトのログイング ファシリティおよび重大度に基づいて、コンソールおよび Telnet セッションに送信されます。状況に応じて、コンソールへのログイング、または特定の Telnet セッションへのログイングをディセーブルにすることができます。

コンソール セッションへのログイングをディセーブルまたはイネーブルにすると、そのイネーブル ステートが以後すべてのコンソールセッションに適用されます。たとえば、コンソールへのログイングをディセーブルにして、コンソール ポートを切り離し、その後再接続しても、そのコンソールへのログイングはディセーブルのままです。

Telnet セッションへのログイングをディセーブルまたはイネーブルにすると、そのセッションに限ってイネーブル ステートが適用されます。Telnet セッションへのログイングをディセーブルにして、セッションを切断し、その後再接続した場合、新しいセッションではログイングがイネーブルになります。



(注)

コンソール ポートから接続しているときに、**set logging session** コマンドを入力すると、**set logging console** コマンドを入力した場合と同じ結果になります。ただし、Telnet セッションを使用して接続しているときに、**set logging console** コマンドを入力した場合は、デフォルトのコンソール ログイング イネーブル ステートが変更されます。

コンソール セッションのログイング ステートをイネーブルまたはディセーブルに設定するには、イネーブル モードで次の作業を行います。

	作業	コマンド
ステップ 1	コンソールセッションでデフォルトのログイング ステートをイネーブルまたはディセーブルに設定します。	set logging console {enable disable}
ステップ 2	ログイングの設定を確認します。	show logging [noalias]

次に、現在および今後のコンソールセッションへのログイングをディセーブルにする例を示します。

```
Console> (enable) set logging console disable
System logging messages will not be sent to the console.
Console> (enable)
```

現在の Telnet セッションのログイング ステータスをイネーブルまたはディセーブルに設定するには、イネーブル モードで次の作業を行います。

	作業	コマンド
ステップ 1	Telnet セッションのログイング ステータスをイネーブルまたはディセーブルに設定します。	set logging session {enable disable}
ステップ 2	ログイングの設定を確認します。	show logging [noalias]

次に、現在の Telnet セッションへのログイングをディセーブルにする例を示します。

```
Console> (enable) set logging session disable
System logging messages will not be sent to the current login session.
Console> (enable)
```

システム メッセージ ログイングの重大度の設定

set logging level コマンドを使用すると、ログイング ファシリティごとに重大度を設定できます。すべてのファシリティを指定する場合は、**all** キーワードを入力します。指定した重大度を特定のファシリティのデフォルト値にする場合は、**default** キーワードを入力します。**default** キーワードを使用しなかった場合、指定した重大度は現在のセッションに限り有効です。

ログイング ファシリティに関するシステム メッセージ ログイングの重大度を設定するには、イネーブル モードで次の作業を行います。

	作業	コマンド
ステップ 1	ログイング ファシリティの重大度を設定します。	set logging level {all facility} severity [default]
ステップ 2	システム メッセージ ログイングの設定を確認します。	show logging [noalias]

次に、すべてのファシリティで（現在のセッションに限り）ログイング重大度を 5 に設定する例を示します。

```
Console> (enable) set logging level all 5
All system logging facilities for this session set to severity 5(notifications)
Console> (enable)
```

次に、**cdp** ファシリティでデフォルトのログイング重大度を 3 に設定する例を示します。

```
Console> (enable) set logging level cdp 3 default
System logging facility <cdp> set to severity 3(errors)
Console> (enable)
```

ログング タイムスタンプ イネーブル ステートのイネーブル化およびディセーブル化

ログング タイムスタンプ ステートをイネーブルまたはディセーブルに設定するには、イネーブル モードで次の作業を行います。

	作業	コマンド
ステップ 1	ログング タイムスタンプ ステートをイネーブルまたはディセーブルに設定します。	<code>set logging timestamp {enable disable}</code>
ステップ 2	ログング タイムスタンプのステートを確認します。	<code>show logging [noalias]</code>

次に、システム ログング メッセージにタイムスタンプを表示できるようにする例を示します。

```
Console> (enable) set logging timestamp enable
System logging messages timestamp will be enabled.
Console> (enable)
```

ログング バッファ サイズの指定

ログング バッファに記録するメッセージ数を設定するには、イネーブル モードで次の作業を行います。

	作業	コマンド
ステップ 1	ログング バッファに記録するメッセージ数を設定します。	<code>set logging buffer <i>buffer_size</i></code>
ステップ 2	システム メッセージ ログングの設定を確認します。	<code>show logging [noalias]</code>

次に、ログング バッファ サイズを 200 メッセージに設定する例を示します。

```
Console> (enable) set logging buffer 200
System logging buffer size set to <200>
Console> (enable)
```

Syslog メッセージ数の制限

重大度に基づいてヒストリ テーブルと SNMP ネットワーク管理ステーションに送信する Syslog メッセージ数を制限できます。デフォルトの重大度は warnings (4) に設定されています。

Syslog メッセージ数を制限するには、イネーブル モードで次の作業を行います。

	作業	コマンド
ステップ 1	Syslog メッセージ数を制限します。	<code>set logging history severity <i>severity_level</i></code>
ステップ 2	システム メッセージ ログングの設定を確認します。	<code>show logging</code>

次に、Syslog メッセージ数を notifications (5) の重大度を持つメッセージに制限する例を示します。

```
Console> (enable) set logging history severity 5
System logging history set to severity <5>
Console> (enable)
```


UNIX Syslog サーバ上での Syslog デーモンの設定

UNIX Syslog サーバにシステム ログ メッセージを送信するには、あらかじめ UNIX サーバ上で Syslog デーモンを設定しておく必要があります。root としてログインし、次の手順を実行します。

ステップ 1 /etc/syslog.conf ファイルに次のような行を追加します。

```
user.debug                /var/log/myfile.log
```



(注) **user.debug** と **/var/log/myfile.log** の間に 5 個のタブ文字を入れる必要があります。
/etc/syslog.conf ファイルのエントリを参照してください。

スイッチは、指定されたファシリティ タイプと重大度に従って、メッセージを送信します。**user** キーワードで、使用する UNIX ログイング ファシリティを指定します。スイッチのメッセージがユーザ プロセスによって生成されます。**debug** キーワードで、記録する状況の重大度を指定します。UNIX システムがスイッチからすべてのメッセージを受信するように設定することもできます。

ステップ 2 UNIX シェル プロンプトに次のコマンドを入力し、ログ ファイルを作成します。

```
$ touch /var/log/myfile.log
$ chmod 666 /var/log/myfile.log
```

ステップ 3 次のコマンドを入力し、Syslog デーモンに変更が反映されたことを確認します。

```
$ kill -HUP `cat /etc/syslog.pid`
```

Syslog サーバの設定



(注) システム ログ メッセージを UNIX Syslog サーバに送信するには、「[UNIX Syslog サーバ上での Syslog デーモンの設定](#)」(p.28-9) の説明に従って、UNIX サーバ上であらかじめ Syslog デーモンを設定しておく必要があります。

Syslog サーバにメッセージを記録するようにスイッチを設定するには、イネーブル モードで次の作業を行います。

	作業	コマンド
ステップ 1	1 つまたは複数の Syslog サーバの IP アドレスを指定します。 ¹	set logging server ip_addr
ステップ 2	Syslog サーバメッセージのファシリティおよび重大度を設定します。	set logging server facility server_facility_parameter set logging server severity server_severity_level
ステップ 3	設定した Syslog サーバへのシステム メッセージ ログイングをイネーブルにします。	set logging server enable
ステップ 4	設定を確認します。	show logging [noalias]

1. 最大 3 つの Syslog サーバを設定できます。

■ スイッチ上でのシステム メッセージ ログイングの設定

次に、Syslog サーバを指定して、ファシリティおよび重大度を設定し、サーバへのログイングをイネーブルにする例を示します。

```
Console> (enable) set logging server 10.10.10.100
10.10.10.100 added to System logging server table.
Console> (enable) set logging server facility local5
System logging server facility set to <local5>
Console> (enable) set logging server severity 5
System logging server severity set to <5>
Console> (enable) set logging server enable
System logging messages will be sent to the configured syslog servers.
Console> (enable)
```

Syslog サーバ テーブルから Syslog サーバを削除するには、イネーブル モードで次の作業を行います。

作業	コマンド
Syslog サーバ テーブルから Syslog サーバを削除します。	<code>clear logging server ip_addr</code>

次に、Syslog サーバ テーブルから Syslog サーバを削除する例を示します。

```
Console> (enable) clear logging server 10.10.10.100
System logging server 10.10.10.100 removed from system logging server table.
Console> (enable)
```

Syslog サーバへのログイングをディセーブルにするには、イネーブル モードで次の作業を行います。

作業	コマンド
設定した Syslog サーバへのシステム メッセージ ログイングをディセーブルにします。	<code>set logging server disable</code>

次に、Syslog サーバへのログイングをディセーブルにする例を示します。

```
Console> (enable) set logging server disable
System logging messages will not be sent to the configured syslog servers.
Console> (enable)
```

ログイングの設定の表示

`show logging` コマンドを使用して、現在のシステム メッセージ ログイングの設定を表示します。設定されている Syslog サーバのホスト名ではなく IP アドレスを表示する場合は、`noalias` キーワードを使用します。

システム メッセージ ログイングに関する現在の設定を表示するには、イネーブル モードで次の作業を行います。

作業	コマンド
現在のシステム メッセージ ログイングの設定を表示します。	<code>show logging [noalias]</code>

次に、システム メッセージ ログिंगの現在の設定を表示する例を示します。

```
Console> (enable) show logging
Logging buffered size:      500
      timestamp option:    enabled
Logging history size:      1
      severity:            notifications(5)
Logging console:           enabled
Logging server:            disabled
      server facility:     LOCAL7
      server severity:     warnings(4)
Current Logging Session:   enabled
```

Facility	Default Severity	Current Session Sever
acl	5	5
cdp	4	4
cops	3	3
dtp	5	5
dvlan	2	2
earl	2	2
filesys	2	2
gvrp	2	2
ip	2	2
kernel	2	2
ld	3	3
mcast	2	2
mgmt	5	5
mls	5	5
pagp	5	5
protfilt	2	2
pruning	2	2
privatevlan	3	3
qos	3	3
radius	2	2
rsvp	3	3
security	2	2
snmp	2	2
spantree	2	2
sys	5	5
tac	2	2
tcp	2	2
telnet	2	2
tftp	2	2
udld	4	4
vmps	2	2
vtp	2	2
0 (emergencies)	1 (alerts)	2 (critical)
3 (errors)	4 (warnings)	5 (notifications)
6 (information)	7 (debugging)	

```
Console> (enable)
```

システム メッセージの表示

show logging buffer コマンドを使用して、スイッチのログング バッファ内のメッセージを表示します。*number_of_messages* を指定しなかった場合、デフォルトとして、バッファ内に格納された最後の 20 個のメッセージ (-20) が表示されます。

スイッチのログング バッファ内のメッセージを表示するには、次のいずれかの作業を行います。

■ スイッチ上でのシステム メッセージ ログイングの設定

作業	コマンド
バッファ内の最初の <i>number_of_messages</i> 指定数のメッセージを表示します。	show logging buffer [<i>number_of_messages</i>]
バッファ内の最後の <i>number_of_messages</i> 指定数のメッセージを表示します。	show logging buffer - [<i>number_of_messages</i>]

次に、バッファ内の最初の 5 つのメッセージを表示する例を示します。

```
Console> (enable) show logging buffer 5
1999 Apr 16 08:40:11 %SYS-5-MOD_OK:Module 1 is online
1999 Apr 16 08:40:14 %SYS-5-MOD_OK:Module 3 is online
1999 Apr 16 08:40:14 %SYS-5-MOD_OK:Module 2 is online
1999 Apr 16 08:41:15 %PAGP-5-PORTTOSTP:Port 2/1 joined bridge port 2/1
1999 Apr 16 08:41:15 %PAGP-5-PORTTOSTP:Port 2/2 joined bridge port 2/2
```

次に、バッファ内の最後の 5 つのメッセージを表示する例を示します。

```
Console> (enable) show logging buffer -5
%PAGP-5-PORTFROMSTP:Port 3/1 left bridge port 3/1
%SPANTREE-5-PORTDEL_SUCCESS:3/2 deleted from vlan 1 (PAGP_Group_Rx)
%PAGP-5-PORTFROMSTP:Port 3/2 left bridge port 3/2
%PAGP-5-PORTTOSTP:Port 3/1 joined bridge port 3/1-2
%PAGP-5-PORTTOSTP:Port 3/2 joined bridge port 3/1-2
Console> (enable)
```

システム Syslog ダンプのイネーブル化およびディセーブル化

システム障害が発生した場合、Syslog バッファ内のシステム メッセージ (**show logging buffer** コマンド実行時の出力) を格納したファイルが生成されます。

システム Syslog ダンプをイネーブルまたはディセーブルにするには、イネーブル モードで次の作業を行います (デフォルトでは Syslog ダンプはディセーブル)。

	作業	コマンド
ステップ 1	システム Syslog ダンプをイネーブルまたはディセーブルにします。	set system syslog-dump {enable disable}
ステップ 2	システム Syslog ダンプのステータスを確認します。	show system

次に、システム Syslog ダンプをイネーブルにする例を示します。

```
Console> (enable) set system syslog-dump enable
(1) In the event of a system crash, this feature will
cause a syslog file to be written out.
(2) Selected syslog file is slot0:sysloginfo
(3) Please make sure the above device has been installed,
and ready to use.
Syslog-dump enabled
Console> (enable)
```

次に、システム Syslog ダンプをディセーブルにする例を示します。

```
Console> (enable) set system syslog-dump disable
Syslog-dump disabled
Console> (enable)
```

次に、システム Syslog ダンプのステータスを表示する例を示します。

```

Console> (enable) show system
PS1-Status PS2-Status
-----
ok          none

Fan-Status Temp-Alarm Sys-Status Uptime d,h:m:s Logout
-----
ok          off          ok          1,00:03:18    20 min
.
.
.
Core Dump                               Core File
-----
disabled                               slot0:crashinfo

Syslog Dump                             Syslog File
-----
enabled                               slot0:sysloginfo
Console> (enable)

```

システム Syslog ダンプ用のフラッシュ デバイスおよびファイル名の指定

Syslog ダンプをイネーブルまたはディセーブルにする際、フラッシュ デバイスおよびファイル名を変更できます。フラッシュ デバイスのみを指定した場合、ファイル名は自動的に sysloginfo に設定されます。フラッシュ デバイスおよびファイル名を指定しなければ、Syslog ダンプ用に設定済みのファイル名は削除され、デフォルトのフラッシュ デバイスとファイル名 (slot0:sysloginfo) が使用されます。

システム Syslog ダンプ用のフラッシュ デバイスおよびファイル名を指定するには、イネーブルモードで次の作業を行います。

	作業	コマンド
ステップ 1	フラッシュ デバイスおよびファイル名を指定します。	set system syslog-file [device:[filename]]
ステップ 2	フラッシュ デバイスおよびファイル名の設定を確認します。	show system

次に、Syslog ダンプ用のフラッシュ デバイスを設定する例を示します。

```

Console> (enable) set system syslog-file bootflash:
Default filename sysloginfo added to the device bootflash:
System syslog-file set.
Console> (enable)

```

次に、フラッシュ デバイスおよびファイル名を設定する例を示します。

```

Console> (enable) set system syslog-file bootflash:sysmsgs1
System syslog-file set.
Console> (enable)

```

次に、フラッシュ デバイスおよびファイル名をデフォルト設定に戻す例を示します。

```

Console> (enable) set system syslog-file
System syslog-file set to the default file.
Console> (enable)

```

コールホームの設定

コールホーム機能を使用して、指定した重大度の Syslog メッセージを、指定した電子メールアドレスやポケベルアドレスに送るようにスイッチを設定できます。



コールホームは Syslog メッセージが生成されると起動されます。生成された Syslog メッセージの重大度が設定値より低い場合は、メッセージが指定の宛先アドレスに転送されることはありません。重大度が設定値より高い場合、スイッチは入力済みの一連の宛先アドレスに Syslog メッセージを転送します。

コールホームは Syslog メッセージとその重大度に関連付けられています。コールホームの重大度を設定する際は、既存の **set logging level** コマンド、および新規に導入された **set logging callhome severity** コマンドに必要な重大度を、十分に検討してください。

Syslog で alerts (レベル 1) のような非常に高い重大度を設定すると、コールホームで notifications (レベル 5) のような低い重大度を設定しても、宛先アドレスは alerts および emergencies (レベル 0 および 1) しか受信しません。宛先アドレスは、指定した残りのコールホーム重大度の通知 (レベル 2、3、4) を受け取りません。宛先アドレスが、設定したすべての重大度の警告および通知を受信するようにするには、コールホームの重大度を、使用する Syslog メッセージの重大度以上に設定します。

複数の Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) サーバを設定すれば、いずれのサーバが障害を起こしてもコールホーム機能は中断しません。SMTP サーバが障害を起こした場合、スイッチは次の設定済みサーバに連絡します。複数の SMTP サーバを設定している場合、スイッチは最初に発見した使用可能な SMTP サーバを使用します。

スイッチ上でコールホームを設定するには、イネーブルモードで次の作業を行います。

	作業	コマンド
ステップ 1	コールホームをイネーブルにします。	set logging callhome {enable disable}
ステップ 2	Syslog メッセージおよび (必要に応じて) フラグメント サイズを受信させる宛先の電子メールまたはポケベルアドレスを指定します。	set logging callhome destination Email or Epage Address [fragment size in bytes]
ステップ 3	スイッチが Syslog メッセージを送信する SMTP サーバの IP アドレスを指定します。	set logging callhome smtp-server IP Address
ステップ 4	コールホームの重大度を指定します。  (注) デフォルトでは、この重大度は critical メッセージのみ (レベル 2) に設定されています。	set logging callhome severity level
ステップ 5	(任意) SMTP サーバが Syslog メッセージを転送できない場合のために [from] 電子メールアドレスを設定します。  (注) 配信に失敗した場合、SMTP サーバはメッセージをこの [from] アドレスに送信します。	set logging callhome from Email Address
ステップ 6	(任意) 受信側に [from] アドレス以外のアドレスに回答させたい場合、[reply to] 電子メールアドレスを設定します。	set logging callhome reply-to Email address
ステップ 7	設定を確認します。	show logging callhome

次に、コールホームをイネーブルにする例を示します。

```
Console> (enable) set logging callhome enable
Callhome functionality is enabled.
Callhome messages will be sent to the configured destination addresses.
Console> (enable)
```

次に、以下のアドレスがコールホーム メッセージを受信するように設定する例を示します。

- ポケベル : adminjoe@epage.cisco (128 バイトのフラグメント サイズを使用)
- 電子メール : adminboss@cisco.com および adminjane@cisco.com

```
Console> (enable) set logging callhome destination adminjoe@epage.cisco fragment 128
Included adminjoe@epage.cisco in the table of callhome destination addresses.
Messages will be sent to this address in fragments of 128 bytes.
Console> (enable) set logging callhome destination adminjane@cisco.com
Included adminjane@cisco.com in the table of callhome destination addresses.
Messages will be sent to this address without fragmentation.
Console> (enable) set logging callhome destination adminboss@cisco.com
Included adminboss@cisco.com in the table of callhome destination addresses.
Messages will be sent to this address without fragmentation.
Console> (enable)
```

次に、IP アドレス 172.20.8.16 の SMTP サーバを設定する例を示します。

```
Console> (enable) set logging callhome smtp-server 172.20.8.16
Included 172.20.8.16 in the table of callhome SMTP servers.
Console> (enable)
```

次に、重大度を 3 (critical および error メッセージ) に設定する例を示します。

```
Console> (enable) set logging callhome severity 3
Callhome severity level set to 3
Console> (enable)
```

次に、From アドレスを adminjoe@cisco.com に設定する例を示します。

```
Console> (enable) set logging callhome from adminjoe@cisco.com
From address of callhome messages is set to adminjoe@cisco.com
Console> (enable)
```

次に、Reply to アドレスを adminjane@cisco.com に設定する例を示します。

```
Console> (enable) set logging callhome reply-to adminjane@cisco.com
Reply-To address of callhome messages is set to adminjane@cisco.com
Console> (enable)
```

次に、設定を確認する例を示します。

```
Console> (enable) show logging callhome
Callhome Functionality:      enabled
Callhome Severity:          LOG_ERR (3)

SMTP Server
-----
172.20.8.16

Destination Address          Message Size
-----
adminboss@cisco.com         No Fragmentation
adminjane@cisco.com         No Fragmentation
adminjoe@epage.cisco       128 bytes

From: adminjoe@cisco.com
Reply-To: adminjane@cisco.com
Console> (enable)
```

コールホームのディセーブル化

コールホームをディセーブルにしても、設定した他のコールホーム パラメータは消去されません。各パラメータを個別に消去する必要があります。

スイッチ上でコールホームをディセーブルにするには、イネーブル モードで次の作業を行います。

作業	コマンド
コールホームをディセーブルにします。	set logging callhome disable

次に、コールホームをディセーブルにする例を示します。

```
Console> (enable) set logging callhome disable
Callhome functionality is disabled.
Callhome messages will not be sent to the configured destination addresses.
Console> (enable)
```

コールホーム メッセージを受信するアドレス リストからアドレスを消去するには、イネーブル モードで次の作業を行います。

作業	コマンド
コールホーム メッセージを受信するアドレス リストから宛先アドレスを消去します。	clear logging callhome destination <i>Email or Epage Address</i>

次に、宛先アドレス `adminboss@cisco.com` をコールホーム メッセージを受信するアドレス リストから消去する例を示します。

```
Console> (enable) clear logging callhome destination adminboss@cisco.com
Removed adminboss@cisco.com from the table of callhome destination addresses.
Console> (enable)
```

[from] アドレスを消去するには、イネーブル モードで次の作業を行います。

作業	コマンド
[from] アドレスを消去します。	clear logging callhome from

[from] アドレスを消去する例を示します。

```
Console> (enable) clear logging callhome from
Cleared the from address field of callhome messages.
Console> (enable)
```

[reply to] アドレスを消去するには、イネーブル モードで次の作業を行います。

作業	コマンド
[reply to] アドレスを消去します。	clear logging callhome reply-to

[reply to] アドレスを消去する例を示します。

```
Console> (enable) clear logging callhome reply-to
Cleared the reply-to address field of callhome messages.
Console> (enable)
```


コールホーム SMTP サーバリストから SMTP サーバを消去するには、イネーブルモードで次の作業を行います。

作業	コマンド
SMTP サーバを消去します。	clear logging callhome smtp-server <i>IP Address</i>

次に、SMTP サーバ 172.20.8.16 をコールホーム サーバリストから削除する例を示します。

```
Console> (enable) clear logging callhome smtp-server 172.20.8.16  
Removed 172.20.8.16 from the table of callhome SMTP servers.  
Console> (enable)
```

コールホームの重大度を消去するには、イネーブルモードで次の作業を行います。

作業	コマンド
コールホームの重大度を消去します。	clear logging callhome severity

次に、コールホームの重大度を消去する例を示します。

```
Console> (enable) clear logging callhome severity  
Cleared callhome severity level to its default value of 2(LOG_CRIT).  
Console> (enable)
```

■ コールホームの設定